

海洋スポーツの指導者養成と地域連携事業の拡充

中村夏実, 榮樂洋光, 坂口陽平 (海洋スポーツセンター), 笹子悠歩 (海洋スポーツセンター・特任助教), 藤田英二, 中垣内真樹 (スポーツ生命科学系), 高橋仁大 (スポーツ・武道実践系)

本プロジェクトは、本学の教育と社会貢献の目標に関連し、海洋スポーツセンターの「普及振興」課題に該当するものであって、海洋スポーツの普及振興を後方支援することにつながる事業を展開することでした。具体的には、下記の事業を実施しました。

1. 地域連携事業：近隣（大隅半島）事業者との連携体制の具体化

①大隅青少年自然の家の「海からのメッセージ事業」における研究支援

これまで、海洋スポーツセンターは、おおすみくんちの企画する「海からのメッセージ事業」に、安全管理や技術指導で協力体制をとってきました。当事業は、4泊5日の宿泊を伴い、児童・生徒達が協力して錦江湾沿岸をカヌーや徒歩で行軍するプログラムで、児童・生徒の生きる力を育むことを目的としています。令和3年度は、錦江湾沿岸のカヌー漕行と知林ヶ島への漕航での安全管理、海洋スポーツセンターでのパドルスポーツの体験活動について、協力実施しました（2021年8月6日～11日）。

また、**今後は**プログラム実施に関する実働協力を継続するだけでなく、**実施効果を検証するため、令和4年度以降、研究事業でも協力体制をとることになり、大まかなテーマが決定されました。**それは、これまでの当事業の「プログラムと生きる力スコアの変動」を、横断的に比較検討して、今後のプログラムの充実とより効果的な展開を検討することです。それに加え、令和4年度は、児童・生徒の、達成感または有能感を確認するため、簡単なカヌー漕の技術テストを考案し、プログラム実施による有能感と生きる力の関連性を検討することも行うことも計画されました。



海洋スポーツセンターでのパドルスポーツ体験活動の様子

令和3年度以前の4年間のプログラム実施成果は、「プログラムと生きる力のスコアの変動」として検討され、1週間程度の長期プログラムで効果があり、参加児童の初期スコアが、実施効果に影響することが示されました（令和4年度学会発表）。

②大隅地域のウォーターフロント開発事業にかかわる関連団体との連絡・調整近隣の海洋スポーツ事業者との連携体制

連携の可能性について、任意参加で意見交換の場が持たれた(2021年6月)。錦江湾沿岸における海洋スポーツ事業の展開について、市民、県民、さらには国内外に広く発信することで地域振興に貢献するという認識が共有され、まずは各事業体が展開する海洋スポーツ事業を広報することにおいて、連携体制を協議していくことが確認されました。

現在、本学内のセンター間連携において、情報発信手段が協議・構築されているところですが、これが確立され次第、各事業体の発信情報とリンクできるよう検討を進めていく予定です。

2. 一般市民の海洋スポーツへの親和性を促す事業

一般市民を対象とした海洋スポーツ関連の公開講座を、30年以上にわたって、積極的・継続的に実施しています。令和3年度は、コロナ禍での開催となり、当初計画に適宜制約や変更等を加えながらでしたが、すべてのプログラムについて実施することができました。

★令和4年度以降も実施します。広報案内をお見逃しなく！

※楽しいマリンスポーツ ※楽しいスキューバダイビング ※青少年マリンスポーツキャンプ



子どもから大人まで、天候によって種目を選びながら海でのスポーツ活動を楽しんでいます！

3. 海洋スポーツの指導者養成に関する事業

海洋スポーツセンターでは、上記1や2の事業に、海洋スポーツ関連学生が、様々な形態で（指導実習・アルバイト・ボランティア活動）指導者・補助指導者として携わることを推奨しながら、海洋スポーツの指導者の育成を図っています。

★令和4年度からは、鹿屋市立野里小学校6年生を対象に、学生が指導計画を立て体験プログラムを提供する事業が始まりました。

それ以外に、下記の通り、資格取得の機会提供や、卒業生の海洋スポーツ活動への関わり調査などを実施しました。

①在学生および関係者への資格取得機会の提供

以下の資格取得講習会を継続的設定していますが、残念ながら、コロナ禍で実施ができませんでした。令和4年度以降も、可能な限り講習会の機会を提供し、在学生および関係者の各種資格取得を促進していきます。

○自然体験指導者 (NEAL)、○小型船舶操縦免許 (講習会場の提供および動力船の貸し出し)

★令和4年度からは、高校教員への海洋スポーツ指導法の研修会を開始しました。

②卒業生の海洋スポーツへの関わり

鹿屋体育大学在学時に、海洋スポーツセンター教員の関連ゼミ、ヨット部、ウィンドサーフィン部、カヌー部、ボート部に在籍していた卒業生について、卒業後の海洋スポーツへのかかわりを調べてみました。

その結果、海洋スポーツ関連の卒業生の内、約3割が海洋スポーツ関連の普及活動に携わっていることがわかりました。また、各自の競技専門種目（海洋スポーツ種目）を生かし、教員、各競技団体の指導者・運営スタッフとして全国各地で、多くの卒業生が主要な役割を果たしていること、人材の育成の立場で、普及振興に携わっていることもわかり、卒業後も大半の者が何らかの形で海洋スポーツの指導的立場にいることがわかりました。

ただし、ここで検討した情報は、令和3年度時点で各部が所有している卒業生名簿を参考に検討した予備調査でしたので、卒業時から更新された情報ではありません。令和4年度は本結果を参考に、改めて調査票を作成して再調査および卒業生からのコメント・授業や事業への意見を募る予定です。これによって、本学での海洋スポーツ関連の指導者育成においてより効果的な方策を検討して参ります。

4. 海洋スポーツ競技指導者の質の向上；パフォーマンス研究

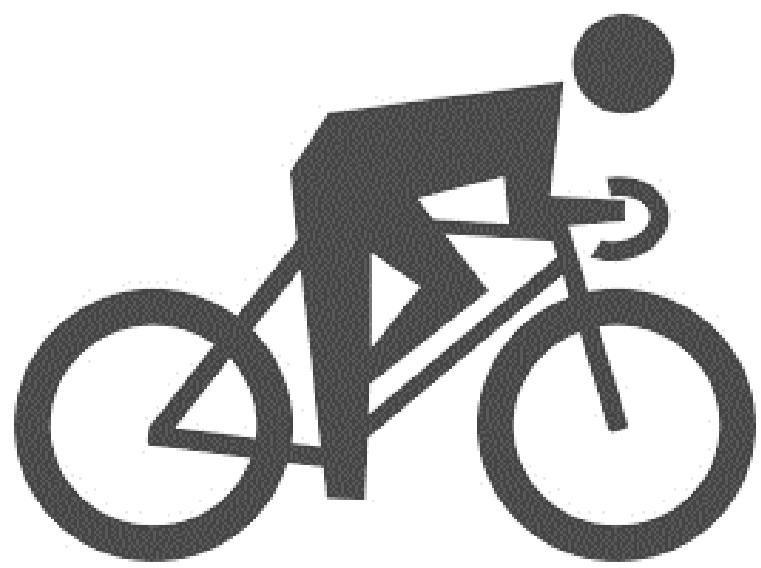
当センターは、競技スポーツのパフォーマンス研究にも力を注いでいます。日本では、海辺、水辺での関連競技の指導者が少ないことから、在学中から、競技スポーツ場面でのコーチングスキルの質を高め、知識量を増やすために、重要な取り組みと考えています。

★令和3年度は、過去に卒業論文として取り組んだセーリングに関するパフォーマンス研究について、改めてデータと内容を再検討し、学会発表（第10回海洋人間学会大会、2021年9月25日）に発表したところ、優秀発表賞を受賞しました。 学術雑誌にも掲載されました。

★笹子悠歩, 榮樂洋光, 薄田成美, 石井泰光, 中村夏実(2022)セーリング競技者における自転車全力ペダリング運動がハイクアウト継続時間に及ぼす影響. 海洋人間学雑誌11(1), 1-8.

本研究の目的：自転車全力ペダリング運動がハイクアウトの継続時間に及ぼす影響について明らかにすること

自転車全力ペダリング運動

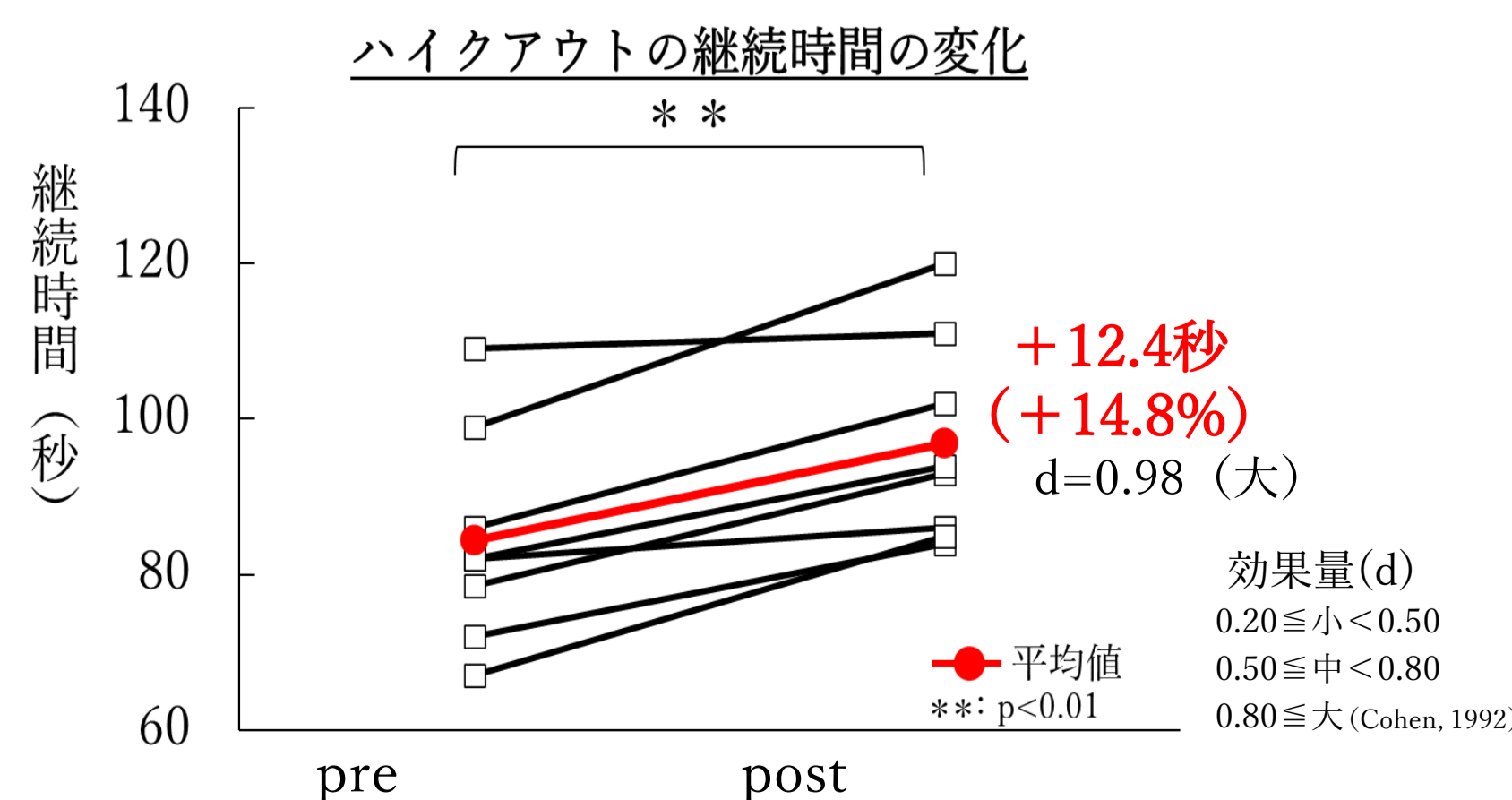


20秒運動×4分40秒休息×5セット
週2回、9週間のトレーニング



ハイクアウト

※艇から身体を乗り出し、艇のバランスを取る動作。
この動作により、高い艇速を維持することができる。



左から榮樂講師、笹子特任助教、松下前学長、中村教授

結論：自転車全力ペダリング運動は、ハイクアウトの継続時間の向上に有効である可能性が示唆された